

三浦 健太郎

今回は三浦先生が2年2組で授業しました。リスのアーサーは、病気のおじいさんのためにひとつしかない金のどんぐりを見つけに行きます。見事ゲットして帰るのですが、落としてしまいます。幸運にも金のどんぐりを拾ったねずみのヘンリーは、お腹をすかせた赤ちゃんのためにどんぐりのスープを作ろうとするのですが……。さて、どんぐりはどちらのもの？モラルジレンマを扱った教材。落としどころをどうするかがポイントの授業でした。価値は「思いやり」かな。

1 二者択一で立場を明確にさせる

どんぐりはどちらのものかという問いで、子供たちの道徳観を引き出します。ほとんどの子がヘンリー。わけも書かせているため、考えが明確になります。発表の仕方もモデルを示し、発言しやすい配慮がなされていました。理由としては「見つけたのはヘンリーだから」「おじいさん死んでしまうから」「ネズミはどんぐりじゃなくてよい」などが挙げられていました。2人がどちらのものとも言えないという考えでした。ここから広がりを見せます。



2 ロールプレイで場面状況をとらえさせる

2年2組の子供たち。ロールプレイが大好きで、「だれかアーサー、ヘンリーになって」という問いかけにたくさんの子が元気よく挙手。日ごろから授業の中で使っているとこのようになります。さて、ロールプレイ効果は？場面状況の把握はねらいどおりできました。もう一步、気持ちを問うと、二人の背景をしっかりと引き出せたかなあと感じました。



3 落としどころはどこに

この授業、見せ場は終盤。どこに落としどころをもっていかでした。アーサー派が多かったのですが、ヘンリーへの共感も見せ始め、どんぐりの取り合いではなく、他の方法を考え始めます。子供たちは自然に互いに納得のいく方法へと視点が移ります。これこそが落としどころ。ころあいよろしく先生は「りょうほうがなっとくするには」と板書。こうした教材を扱う場合、多様な価値観を引き出すことはできますが、価値をはっきりさせるのは難しいものです。どこを落としどころにするかは教師の判断ですね。この教材では、どんぐりはアーサー。ただ、ヘンリーもなんらかの食べ物をというのが適切でしょう。低学年の扱いがとても上手く、楽しく授業が進みました。



「楽しかった」と三浦先生も。2学期もやる気満々。他の先生方もやってみてはいかがでしょう？

